

実践報告

第11回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設 合同セミナー実践報告

曾田幸一朗¹⁾、川口浩太郎¹⁾、三島淳一²⁾、大柿風央²⁾、平上尚吾¹⁾、松沢良太¹⁾、
西殿善由³⁾、尾垣奈穂³⁾、玉木彰¹⁾、片山覚⁴⁾、道免和久⁵⁾

1) 兵庫医科大学リハビリテーション学部、2) 兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部、
3) 兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、4) 兵庫医科大学ささやま医療センター、
5) 兵庫医科大学医学部リハビリテーション医学講座

The Practice Report : The Eleventh Annual Seminar of Rehabilitation Medicine in Hyogo College of
Medicine Educational Foundation

Koichiro SOTA¹⁾, Kotaro KAWAGUCHI¹⁾, Jyunichi MISHIMA²⁾, Nao OGAKI²⁾,
Shogo HIRAGAMI¹⁾, Ryota MATSUZAWA¹⁾, Yoshiyuki NISHIDONO³⁾, Naho OGAKI³⁾,
Akira TAMAKI¹⁾, Satoru KATAYAMA⁴⁾, Kazuhisa DOMEN⁵⁾

1) School of Rehabilitation, Hyogo Medical University
2) Department of Rehabilitation, Hyogo Medical University Hospital
3) Department of Rehabilitation, Hyogo Medical University Sasayama Medical Center
4) Hyogo Medical University Sasayama Medical Center
5) School of Medicine, Department of Rehabilitation Medicine, Hyogo Medical University

抄 録

「第11回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー（以下、合同セミナー）」が2021年9月6日から9月18日の期間、オンデマンド方式で開催された。合同セミナーは、学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設の情報共有と相互研鑽を図ることを目的として、2010年から毎年開催されている。今回の合同セミナーには、学校法人兵庫医科大学でリハビリテーション医療に関わる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、兵庫医療大学学部生・大学院生も含め、のべ267名の医療専門職者が動画を視聴した。今回はコロナ禍での開催であったため、「COVID-19」をキーワードとした特別講演、情報共有セッションを企画した。特別講演は、常滑市民病院感染症科部長であり、本学名誉教授、特別招聘教授である竹末芳生先生から、「COVID-19の話題：ワクチン、変異株も含め」というテーマで行われた。また、情報共有セッションでは、2020年から続くコロナ禍の中で、各施設がどのような対策をしながら臨床、教育を実施しているかについて発表いただいた。今回、正しいCOVID-19の知識とそれに対する各施設での対応について教職員だけでなく、学生も情報共有ができ、これからの医療人としての立ち居振る舞いに関して、学びの多いセミナーとなった。

キーワード：学校法人兵庫医科大学、リハビリテーション、セミナー、実践報告

Abstract

The 11th Seminar of Rehabilitation-related Facilities of Hyogo College of Medicine was held on demand from September 6 to 18 2021. A total of 267 medical professionals including physicians, physical therapists, occupational therapists, speech therapists, and others including undergraduate and graduate students of the Hyogo University of Health Sciences viewed the videos at this seminar. Since the seminar was held at the Corona Disaster, special lectures and information sharing sessions were planned with "COVID-19" as the keyword. The special lecture was given by Dr. Yoshio Takesue, Director of the Department of Infectious Diseases at Tokoname Municipal Hospital on the theme of "Topics on COVID-19: including vaccines and mutant strains. In the information sharing session, three presenters gave a presentation on how each institution is implementing clinical and educational measures in the midst of the coronary disaster that will continue from 2020. This seminar was a learning experience for not only faculty and staff but also students in terms of correct knowledge of COVID-19 and how to respond to it at each facility, and was a great learning experience for how to behave as a future medical professional.

Key Words : Hyogo College of Medicine Educational Foundation, Rehabilitation, Seminar, Practice Report

I はじめに

「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」(以下、合同セミナー)は、兵庫医科大学リハビリテーション学部一期生が卒業を迎えた2010年に初めて開催され、今回で11回を迎えた。合同セミナーは、兵庫医科大学リハビリテーション医学講座、兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、そして理学療法士・作業療法士を養成する兵庫医科大学リハビリテーション学部が共同して、診療、研究、教育の三本柱をより強固にし、質の高いリハビリテーション医療を推進することを目的として開催されている。2020年はCOVID-19が猛威を振るっており、本セミナーを中止する判断をした。今回、2020年同様にCOVID-19が猛威を振るっていたが、法人内の規定に沿って、2021年は第11回の合同セミナーを開催する運びとなった。第10回までの本セミナーとは異なり、対面式で行うための対策や、遠方から講師を招聘するための対策などに苦慮をした。準備が進む中、COVID-19の第4波、第5波の勢力が強くなり、対面での開催を断念し、オンデマンド方式での開催へと変更を余儀なくされた。しかしながら、オンデマンド方式での開催でも、延べ267名が動画視聴し、COVID-19に対する正しい知識の共有と、学校法人兵庫医科大学の各施設がそれぞれの立場でのCOVID-19

に対する対応について情報共有をすることができた。本報告では、第11回合同セミナーの開催内容と今後の展望などについて述べる。なお、本報告は2021年度に開催した合同セミナーの実践報告であるため、施設名や所属は兵庫医科大学と兵庫医科大学の統合前のままで記載する。

II 第11回合同セミナー

第11回合同セミナーは2021年9月6日から9月18日にオンデマンド形式で行われた。本形式の決定までの経過をFig.1、当初予定していた開催日のプログラムを資料1に示す。

2021年3月より開催に向けて準備が開始された。コロナ禍であることから、合同セミナーのテーマを「COVID-19」としてプログラムを作成し、特別講演講師への打診を開始した。法人内の事務手続きを経て、本法人のコロナ対策に従った準備を進めた。対面形式での開催を第一選択として準備を進める一方で、COVID-19の影響を鑑みて、対面とwebとのハイブリッド形式での開催についても並行して準備委員内で検討をした。7月には第4波の状況と第5波の予測を基に、ハイブリッド方式での開催へ変更することを決定し、準備を進めた。しかし、第5波の猛威が急速に広がり、8月中旬に法人規定の変更もあり、急遽、オンデマンド方式での開催に変更した。

特別講演

第11回合同セミナーでは、常滑市民病院感染症科部長であり、本法人名誉教授、特別招聘教授である竹末芳生先生を講師として特別講演を実施した。「COVID-19の話題：ワクチン、変異株を含め」と題して、2020年から猛威を振っているCOVID-19の最新の話題について、兵庫医大で今まで取り組んでいた対策やワクチン、変異株などの話題も含めてご講演いただいた。

SARS-CoV-2陽性患者の呼吸器管理方法について、現在までに実施されてきた兵庫医科大学病院での報告や、常滑市民病院での報告をされた。High Flow Nasal Cannula (HFNC) では、エアロゾルリスクは通常の経鼻酸素投与と差がないことや室内の空気中からはSARS-CoV-2ウィルスは検出されないという最新の報告はあるものの、HFNC装着患者がサージカルマスクを着用しない状況ではエアロゾルを拡散する可能性があることも報告され、実症例としてサージカルマスク装着が困難であった認知症症例に対して、早期にHFNCの中止を判断した症例も経験したことを報告された。

また、リハビリテーション関連職種が関わる上で、感染防御方法の変更時期と終業停止期間についても報告された。最新の知見をもとに、陽性患者の感染対応除去の時期を、発症後20日以降にPCRを実施して陰

性確認された場合、または、発症後6週間以上経過し、症状がない場合は標準接触予防策に変更することを報告された。また、医療者が濃厚接触者となった場合の就業停止期間についても、最新の知見を示し、明確な復帰の条件を報告された。感染を広げずに病院機能を維持するためには、COVID-19に対する適切な知識を用いて、就業停止期間や患者を隔離する期間を決定することが大切なことを再認識することができた。

ワクチンについては、各社のワクチンの特徴や、2回接種の重要性、Booster接種の有効性について中心に報告された。一度感染した患者においても、ワクチンを接種することで抗体価が高くなることを報告された。また、変異株に対しては既存のワクチンでは効果が引くことを報告され、ワクチンを接種したからといって、感染予防対策をしなくてよいわけではないことを報告された。

医療者として適切にCOVID-19に対応するために、ウィルスの特徴、ワクチンの効果、感染防御対策期間や就業停止期間の考え方について、最新の情報をもとに講演をいただいた。特に変異株の影響が強く出てきている現在、ワクチンを接種したからといって油断はできないことを再確認できた一方で、今まで行ってきた手指衛生やサージカルマスクの使用による感染予防対策が効果的であることも改めて認識することができた。

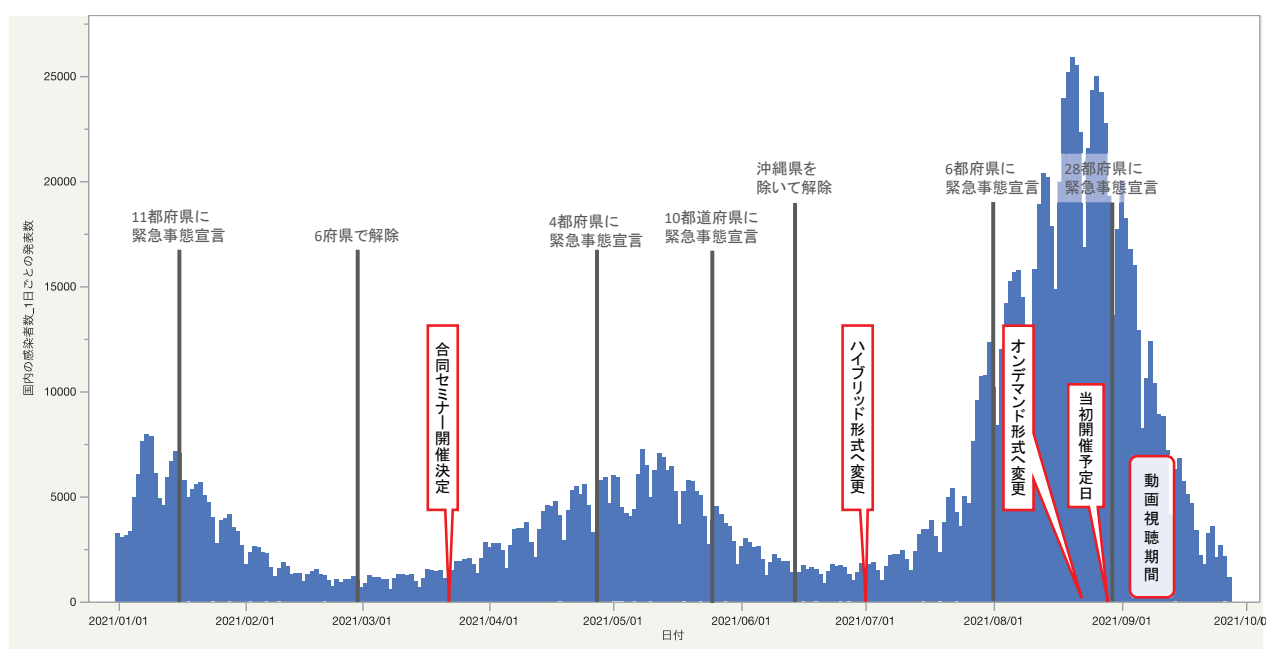


Fig.1 COVID-19感染者数の推移と合同セミナー開催形式検討の経過

第11回学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー
プログラム

2021年8月28日(土)

会場：兵庫医科大学オクタホール web開催

司会：兵庫医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授 川口 浩太郎

1. 開会の挨拶 14:00～14:05
兵庫医科大学リハビリテーション学部理学療法学科 教授 川口 浩太郎

2. 法人代表挨拶 14:05～14:10
兵庫医科大学 理事長 太城 力良

3. 特別講演 14:10～15:10
座長：兵庫医科大学ささやま医療センター 病院長 片山 覚
講師：常滑市立病院感染症科 部長
兵庫医科大学感染制御学 特別招聘教授 竹末 芳生
「COVID-19の話題：ワクチン、変異株も含め」

(休憩 15:10～15:20)

4. 情報共有セッション 15:20～16:20
座長：兵庫医科大学 リハビリテーション医学講座 講師 内山 侑紀
演者
兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部 課長 梅田 幸嗣
「兵庫医科大学病院における新型コロナウイルス感染予防対策
～安全・安心な医療の提供を目指して～」

兵庫医科大学 ささやま医療センター リハビリテーション室 課長 杉田 由美
「コロナ禍における当院の感染症対策の実践」

兵庫医科大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 坂口 顕
「コロナ禍における本学での大学生活・学びの継続について」

5. 閉会の挨拶 16:20～16:30
兵庫医科大学 リハビリテーション医学講座 主任教授 道免 和久

資料1

情報共有セッション

今回の合同セミナーでは2020年からのCOVID-19への対応について、各施設から発表をいただいた。兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部の梅田幸嗣課長、兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室の杉田由美課長、兵庫医科大学リハビリテーション学部の坂口顕教授の3名の先生方にご講演

いただいた。

兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部の梅田幸嗣課長からは、「兵庫医科大学病院における新型コロナウイルス感染予防対策～安全・安心な医療の提供を目指して～」と題して報告された。兵庫医科大学病院での感染予防対策は、感染予防策を講じることで安全、安心な医療を患者に提供することを目的に実施されている。その対策について、病院としての対策、リ

ハビリテーション技術部としての対策、リハビリテーションセンターとしての対策について報告された。リハビリテーション技術部が講じる対策としては、病院の対策同様に、職員の体調管理や環境整備を含めた消毒、スタッフルームの換気、休憩時間の分散取得などを実施している。スタッフルームの換気では二酸化炭素モニターを指標に実施していることも報告された。実習生についても、健康管理表の記載、感染対策への情報共有、行動記録の記載、感染リスクの高い病棟への出入りを禁止するなどの対策を講じて実習を行っていることを報告された。リハビリテーションセンターで講じている対策としては、センター入退室時に職員だけでなく、患者にも手指消毒、マスクの装着を徹底して実施している。加えて、リハビリテーション室へ入室する患者数も制限し、患者が使用したベッド、物品はその都度消毒することとしている。最後に、COVID-19陽性患者への対応として、理学療法士5名がローテーションを組んで対応を実施していることを報告された。通常業務に戻る際には、5日間の自宅待機後、PCR陰性を確認してから通常勤務へ復帰する体制をとっていると報告された。リハビリテーション職種は患者と密に接することが多いため、より厳格な感染制御が必要であるため、病院長の許可のもと、病院の基準よりも厳しい基準で職員の感染対策を実施していることを報告された。

兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室の杉田由美課長からは「コロナ禍における当院の感染対策の実施」と題して報告された。ささやま医療センターでは院内患者のみならず、外来での対応、回復期病棟、地域包括ケア病床、訪問リハビリテーションと様々な場面で職員が対応しており、感染リスクの高い部門であると認識されている。そのため、これまでの感染対策の取り組みとしては、環境整備、用具や機器の更新や管理方法の見直し、感染症情報の共有と対策の徹底、職員教育などが実施されたことを報告された。また、リハビリテーションセンターでの感染対策として、療法時間の調整、配置や動線の変更、予防策継続のための取り組み、対策の強化とリハ提供の工夫について報告された。その中で、今後は、患者利用者の意欲維持への取り組みや、学生指導、新人教育の変化、家族との情報収集・共有の難しさへの対応が課題であることを報告された。以上のように、様々な施設が併設しているささやま医療センターならではの問題やその解決策について報告された。感染状況が楽観視できない中ではあるが、ささやま地域のリハビ

リテーションが途切れることの無いよう、スタッフ一同協力し感染対策を図ることが大切であると報告された。

兵庫医科大学リハビリテーション学部の坂口顕教授からは「コロナ禍における本学での大学生活・学びの継続について」と題して報告された。大学としての対応、学外実習を含めた学部学科としての対応、個々の授業の対応を中心に報告がされた。学びを継続すること、コミュニティを作るために、担当教員、特に新入生担当教員が密に連絡を取り合う工夫をされたことや、上級生が下級生に対してサポートを行う、オンラインサポート制度というものを学生が作成し対応していたことを報告された。授業の方法としては、Learning Management System (LMS) であるMoodleを使用して実施していたが、講義形式の授業とディスカッション形式の授業では学生の満足度に差が生じたことも報告された。その中でも、方法を工夫したグループワークが重要であると報告された。触診などの対面授業としての感染対策としては蜜を避けて1グループに1人の指導者が対応できるようにし、手指衛生、環境消毒を徹底して実施する方法を紹介された。コロナ禍で工夫しながら行なった授業でも、例年通りの成績を残すことができたことも報告された。オンライン授業での利点、欠点、対面授業での感染対策の徹底をして、安全を確保しながら学びを継続し、教育効果の高い授業を展開できるよう各教員が努力していることが報告された。

Ⅲ 参加状況およびアンケート結果

今回、オンデマンド開催で実施した。3施設へ同じプラットフォームを用いて動画配信するには、プラットフォームの準備等に時間を要することから、今回は各施設で管理しやすいプラットフォームを使用して動画配信する方針とした。具体的には兵庫医科大学と兵庫医科大学病院、ささやま医療センターがMicrosoft Teamsを利用し、兵庫医科大学がMoodleを使用して動画配信を行なった。

配信動画延べ視聴者数は3施設合計で267名であった。参加者の内訳は、兵庫医科大学および兵庫医科大学病院が40名、ささやま医療センターが50名、兵庫医科大学学部生、大学院生、教員が177名であった。また、今回は動画配信後にGoogle Formを使用した簡単なアンケートを実施した。100名から回答があり、90%近くの方が満足する合同セミナーであった。

今回の開催形式については「好きなときに動画が視聴できたので良かった」や「オンライン開催は、何度も聞き直すことができ良かった」など、オンデマンド形式の利点が十分に活かされ、正しいCOVID-19の知識とそれに対する各施設での対応について、情報共有ができたと考えられた。

Ⅳ 今後の展望

今回で11回目を迎えた合同セミナーは、時代背景に沿ったプログラムで開催された。実施形式も例年の対面開催ではなく、オンデマンド形式での開催となり、参加者は法人内のみに限定されたものの、多数の参加者があり、COVID-19に対する適切な知識と各施設での取り組みについて情報共有することができた。

大学統合により今回の3施設で行う合同セミナーは2021年度で終了したが、今後も引き続き、学校法人兵庫医科大学内リハビリテーション関連施設の教職員は協働し、臨床を基盤とし共同研究を含めた臨床研究を通じて、「臨床・研究」の関係性をより深めるとともに、臨床実習をはじめとする「教育」においても具体的な発展に繋げていくことが重要であると考えられる。

謝辞

このたび、第11回合同セミナー実践報告をまとめるに当たり、ご協力を頂いた兵庫医科大学ささやま医療センターリハビリテーション室、兵庫医療大学リハビリテーション学部、兵庫医科大学リハビリテーション医学講座および兵庫医科大学病院リハビリテーション技術部のスタッフの皆様に深謝いたします。